

ドイツ語（初級 A） 第 13 回 従属の接続詞

範囲：教科書 S. 34-35（CD トラック 48-50）

《今回の基本例文》

46. Ich kann keine Ferienreise machen, weil ich sparen muss. (CD48-2)

私は節約しなければならないので、休暇の旅行はできない。

[従属の接続詞を用いた副文（主文先頭型）]

47. Wenn du es mir morgen zurückgibst, leihe ich dir das Buch. (CD49-3)

明日に返してくれるなら、私は君にその本を貸すよ。

[従属の接続詞を用いた副文（副文先頭型）]

48. Wissen Sie, wer der Herr da ist? (CD50-1)

そこにおいで紳士がどなたか、あなたをご存じですか？

[間接疑問文]

教科書第 8 課 C. 定動詞の位置（3）：従属の接続詞（S. 34）

教科書 1 従属の接続詞

◇ ドイツ語でも英語と同じく、**名詞節**、**副詞節**、**関係代名詞節**などの**副文**が存在し、名詞節と副詞節は**従属の接続詞**に、関係代名詞節は関係代名詞（⇒教科書 S. 60）に導かれる。

ここでは、従属の接続詞によりつくられる名詞節と副詞節を学ぶ。

◇ 従属の接続詞としては、以下のものを覚える必要がある。

| 機能 | 従属接続詞 | 英語 | 意味 |
|-----|---------|------------------|-------------|
| 副詞節 | als | when | ～したとき |
| | bevor | before | ～する前 |
| | bis | till, until | ～するまで |
| | da | because, since | ～する以上 |
| | damit | so that | ～するように |
| | indem | while | ～しながら |
| | obwohl | though, although | ～にもかかわらず |
| | sobald | as soon as | ～するや否や |
| | während | while | ～するあいだ |
| | weil | because | ～するので |
| 名詞節 | wenn | when, if | ～するとき、～するなら |
| | dass | that | ～すること |
| | ob | if, whether | ～するかどうか |

・以上のなかで、**dass** と **ob** は名詞節を導く。**dass** 節 (*that* 節に相当) や **ob** 節 (*if* 節、*whether* 節に相当) は、英語と同じく名詞と同じく文全体の主語や目的語になりうる。

- ・ **dass** と **ob** 以外のすべては副詞節を導く。
- ・理由をあらわす副詞節を導く従属の接続詞には **da** と **weil** があるが、**da** は聞き手も知っている理由を言うのに対し、**weil** は一般に論理的な因果関係を言う。
- ・時をあらわす副詞節を導く従属の接続詞には **als** と **wenn** があるが、現在および未来には **wenn** を、過去には **als** を用いる。**wenn** の場合、「～するならば」という条件文 (*if* 節に相当) もつくる。

◇ 従属接続詞に導かれる副文内部の語順は、英語ともドイツ語の**主文 (定動詞第 2 位)**ともまったく異なり、**定動詞を副文の文末に置く (定動詞後置)**。むしろ日本語の語順に近くなるともいえる。

・例によって不定詞句から考えると、副文内部の語順は元の不定詞句とまったく同じになる。例えば、

sehr fließend Deutsch **sprechen** 非常に流暢にドイツ語を話す
を、主語を **er** として **weil** を用いる副文とすると、

weil er sehr fließend Deutsch **spricht** 彼が非常に流暢にドイツ語を話すので
となる。語法の助動詞 **können** を加えると、

sehr fließend Deutsch **sprechen können**
→ **weil** er sehr fließend Deutsch **sprechen kann**

彼は非常に流暢にドイツ語を話せるので

・なお、不定詞句と同じ語順をとるということは、分離動詞の場合、前綴りが分離しないことを意味する。

eine Flasche Wein **mitbringen** ワイン一本を持ってくる

→ **weil** er eine Flasche Wein **mitbringt** 彼がワイン一本を持ってくるので

・まとめると、

| | |
|-------------------|-----------------------------------|
| 主文 | 定動詞第 2 位：不定詞句末の不定詞を 2 番目に移動させ定動詞化 |
| 主文 (決定疑問文) | 定動詞第 1 位：不定詞句末の不定詞を 1 番目に移動させ定動詞化 |
| 副文の内部 | 定動詞後置：不定詞句末の不定詞をそのまま定動詞化 |

◇ 副文の外部 (=主文) では定動詞第 2 位の原則が働くので、名詞節や副詞節を一要素として数え、名詞節や副詞節が文頭に出るときはその次に定動詞が来る。主文と副文の位置関係についての注意は以下の通り。

・副詞節の副文を主文のうしろに置く場合、単に読点で区切れればよい (英語と同じ)。

(例) Er kommt heute Abend zu Fuß, weil er eine Flasche Wein mitbringt.

彼は、ワインを 1 本持ってくるので、今晚は徒歩で来る。

・これに対して、副詞節の副文を主文の頭に置く場合、一つの副詞要素としてカウントされるので、定動詞第 2 位の原則が働き、語順が変わる (英語と異なる)。読点は必要。

(例) Weil er eine Flasche Wein mitbringt, kommt er heute Abend zu Fuß.
(副詞節) (定動詞) (主語)

・名詞節の副文を主文のうしろに置く場合 (4 格目的語など)、単に読点で区切れればよい。

(例) Ich glaube, dass du endlich kommst.

私は、最終的には君が来てくれると思っている。

・名詞節の副文を主語とする場合、主文の頭に置いてもよい。この場合も、やはり一つの名詞要素としてカウントされ、定動詞第 2 位の原則が働くが、もともと主語なので語順は変わらない。読点は必要。

(例) Dass du endlich kommst, freut mich sehr.
(名詞節=主語) (定動詞) (目的語)

君がとうとう来てくれることが、私を非常に喜ばせる (君がとうとう来てくれて、私はうれしい)。

* **freuen** *vt.* ~を喜ばせる

・ただし、名詞節の副文を主語とする場合、副文を先取りする**仮主語 es** を用い、名詞節自体はうしろにまわすこともできる (英語の仮主語 *it* と同じ)。句点は必要。 (⇒教科書 S. 67)

(例) Es freut mich sehr, dass du endlich kommst.
(仮主語) (定動詞) (目的語) (名詞節=本来の主語)

* つまり、教科書 S. 35 の例文 i) は、本来の主語である名詞節に仮主語 **es** を用いた文体であり、一つ前の例文のように、名詞節を主文の頭 (= 通常の主語の位置) の位置においてもよいわけである。

** 長い名詞節であればあるほど、仮主語を用いる文体が好まれる。

◇ 従属の接続詞は、並列の接続詞 (⇒教科書 S. 25) と相互に書き換えることができる。具体的には、**aber** → **obwohl**、**denn** → **weil** の書き換えが可能。もちろん、互いに語順が変わってしまうことに注意。

(例) Er **geht** ins Theater, **aber** ich bleibe zu Haus.

→ Ich bleibe zu Haus, **obwohl** er ins Theater **geht**. /

Obwohl er ins Theater **geht**, bleibe ich zu Haus.

Wir mögen ihn, **denn** er **ist** sehr freundlich.

→ Wir mögen ihn, **weil** er sehr freundlich **ist**. /

Weil er sehr freundlich **ist**, mögen wir ihn.

教科書 Übung 1 (S. 35)

1. Schluss machen は「(仕事などを) 終わりにする」の意味の熟語。um Mittag の um は時刻を表す用法。 (⇒教科書 S. 37)

3. leihen は「(3 格) に (4 格) を貸す」の意味の他動詞。zurück|geben は「(3 格) に (4

格) を返す」の意味の他動詞 (かつ分離動詞)。

教科書 2 間接疑問文

◇ 英語と同じく、ドイツ語でも疑問詞を用いた**間接疑問文**をつくることができる。ただし、副文としての名詞節なので、間接疑問文の語順は定動詞後置となる。

◇ 用いるのは、その間接疑問文が

- ・決定疑問文の場合: ob

(例) Ich weiß nicht, ob er Deutsch spricht.

(← Spricht er Deutsch?)

彼がドイツ語を話すのかどうかを、私は知らない。

- ・疑問詞を用いた疑問文の場合: 同じ疑問詞 (⇒授業第 3 回配付資料 S. 3)

(例) Ich weiß nicht, was er von Beruf ist.

(← Was ist er von Beruf?)

彼がどんな職業に就いているのかを、私は知らない。

Ich weiß nicht, wo Fritz jetzt wohnt.

(← Wo wohnt jetzt Fritz?)

フリッツがどこに住んでいるのかを、私は知らない。

- ・前置詞と疑問代名詞の融合形 (⇒教科書 S. 27) も間接疑問文を導くことができる。

(例) Ich weiß nicht, womit du fährst.

(← Womit fährst du?)

君が何に乗って行くのか、私は知らない。

教科書 Übung 3

2. **welcher** は「どの、どちらの」をあらわす疑問代名詞で、名詞を修飾する (英語の *which* に相当)。変化形は **dieser** 型 (⇒教科書 S. 19)。前置詞と併用されることもあり、**mit welchem/welcher/welchen** ~で「どの~によって」の意味になる。 (⇒教科書 S. 42)

3. **an jn./et⁴. denken** は既出。 (⇒教科書 S. 28)

連絡先など

教員のメールアドレス: tokan@nifty.com 教員のウェブサイト: <http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>